様式１（小・中）

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和２年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	みやき町立三根西小学校
1　前年度 評価結果の概要	・道徳、学活、全ての教育活動をとおして、思いやりの心で人と接することを伝えてきた。特に、してもらってうれしかったことを「いいこといっぱいカード」に記入し、給食時に紹介する活動は成果が上がる取り組みであった。今後も児童の心を育むための取組を継続していく必要がある。 ・食生活アンケートで、朝食喫食率は100%で表彰を受けた。今後も家庭に学校での取組やアンケートの結果等をお知らせし協力して取り組みを進めていきたい。また、本校の児童は休み時間等、外で遊ぶ習慣が身に付いている。体力向上のために、これからも外遊びを推奨したい。 ・地域には、学校での様子を学校便りや学校ホームページ等でお知らせすることにより、学校に足を運んでもらえることが多くなった。中学校へのスムーズな移行も視野に入れて、中学生によるあいさつ運動や体育大会ボランティアの派遣などの小中連携の取組が充実してきており、継続したい。
2　学校教育目標	やさしく、かしこく、たくましい三根西っ子の育成
3　本年度の重点目標	①やさしい子を育む（思いやりを持ち、助け合う子供の育成） ②かしこい子を育む（進んで学び、よく考える子供の育成） ③たくましい子を育む（生き生き活動する元気な子供の育成）

4　重点取組内容・成果指標　　中間評価　　5　最終評価

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の推進を図る。	C	・マイプランの成果指標を達成できたと自己申告する教師は66.7%であった。マイプランの成果指標を職員全員で確認してもらうことにより、更に普段からマイプランを意識した授業づくりを行う。	B	・マイプランの成果指標を達成できたと自己申告する教師は83.3%であった。中間評価と比較すると16.6ポイントの伸びが見られた。 ・2月末、学力向上対策研修会を実施し、佐賀県学習状況調査の検討及び今後の対策の検討を行った。今後、より一層の授業改善を図っていく。	A	・佐賀県学力状況調査の結果から、先生方の取組が、学力向上につながっていると考えられる。	・学力向上コーディネーター ・研究主任
	○校内研究の推進	○授業力が向上した教師85%以上	・全員年間1回以上の研究授業を行う。 ・講師招聘により、授業力の向上を図る。	B	・1学期全体研を行い、研究の方向性を示すことができている。夏休みに講師を招聘しての検討会や2学期の全体会の計画を立て、見通しをもって進められている。	B	・コロナ禍で話し合い活動等、制限がある中での授業ではあったが、その中で児童に「問いを立てる」ことへの意識を高めることができた。 ・全員が研究授業を行い、授業力の向上を図ることができた。しかし、授業力が向上したと回答した教師は、66.6%であった。	A	・全員が授業研究に取り組んだり、講師招聘を行ったりしていることが学力の向上につながっているようだ。先生方の自己評価は、低いようだが、客観的なテストの結果を見ると十分成果が上がっている。	・研究主任 ・学力向上コーディネーター
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童80%以上	・道徳に関するアンケートを実施する。 ・仲良し集会や縦割り活動等で、自己肯定感や自己有用感の高揚を図る。	A	・道徳に関するアンケートにおいて、22の道徳的価値項目で肯定的な回答をした児童が92.7%だったことから、今後もこれまで同様の取り組みを継続する。	A	・道徳に関するアンケートにおいて、22の道徳的価値項目で肯定的な回答をした児童が92.5%だっかことから、来年度も同様の取り組みを継続するとともに、肯定的な回答率が低い価値項目についての取り組みを強化していく。	A	・児童のアンケートから道徳教育の効果が上がっていると感じる。 ・教え込むのではなく、道徳的な価値を児童が気付くような指導をしてほしい。	・道徳教育推進教師 ・人権・同和教育担当者 ・教育相談担当 ・特別活動担当
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等（いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等）について組織的に対応できていると回答した教員85%以上	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルを作成・見直しを行う。 ・いじめの対応についての研修・会議を年間に3回以上行う。	B	・いじめ防止等について組織的に対応できていると肯定的に回答した教職員は92.3%だった。連絡会や会議において教職員同士で情報を共有することを継続する。	B	・いじめ防止等について組織的に対応していると回答した教員は、85.9%であった。 ・再度いじめの定義について確認し、積極的な認知につなげていく。 ・教職員同士で児童の話をすることも多く、情報の共有につながった。	B	・地域や児童クラブ等との連携が、より一層必要である。地域全体で子供を育てていくような環境になってほしい。 ・「いいこといっぱい」や「ぽかぽかアクション」等の取組を今後も継続してほしい。	・生徒指導担当者 ・管理職
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童（小学6年生）80%以上	・キャリアパスポートの活用を図る。 ・「夢の教室」をとおして、６年生児童に夢をもつことや夢に向かって努力することの大切さを実感させる。	B	・アンケート「将来の夢や目標をもっている」について、肯定的な回答をした６年生の児童は78.8%だった。今後は「夢の教室」やキャリア教育の実践を進める中で、６年生の児童の意識を高めていく。	B	・「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした６年児童は80.8%と中間評価よりも若干高くなった。また、夢の教室でワールドカップやオリンピックに出場し夢を実現した方に直接接することで、夢をもって努力することの大切さを学年全体として改めて認識することができた。	A	・「夢の教室」で、実際に有名なアスリートに会うことは、大変感動することである。憧れを抱き、目標にするよいきっかけになる。今後も続けてほしい。 ・可能であれば、運動面だけでなく科学の面でも、同じような取組があれば一層よい。	・教務主任 ・各教科主任
●健康・体つくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童95%以上	・食育の授業を年間1回以上、各学級で行う。 ・朝の健康観察で、朝の喫食の実態把握を毎日行う。	C	・食育の授業は、２学期以降してもらうように声をかけていく。 ・朝の喫食の実態把握は、できている。（健康調査簿）	B	・「健康に食事は大切である」と考える児童は87.9%・だった、 ・今年度はコロナ禍で、食育の授業まで手が回らない状況だったが、感染しない食べ方等を各クラスで日々指導した。 ・朝の喫食の実態把握は、毎日できている。（健康調査簿）	B	・朝食の喫食率は、よい。今後も続けてほしい。 ・きちんとした食育の授業は、全学級ではできていないようだが、朝の時間等を活用した食育指導は、進んでいるようだ。来年度は、ぜひ食育の授業に取り組んでほしい。	・食育担当者 ・体育主任
	●運動習慣の改善や定着化	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が１週間で420分以上の児童80%以上	・チャレンジスポーツの紹介を行い、取組を推進する。 ・縦割り縄跳び大会を行い、運動に対する意欲を高める。	C	・1学期の運動の取り組み推進を進められなかったが、委員会の活動として、チャレンジスポーツを中心に取り組みの推進を行っていく。	B	・今年度は、感染症予防対策のため、運動に親しむ機会が減少した。また、運動の機会も奪われ、授業以外で運動やスポーツを行う時間が１週間で420分以上の児童は55.4%だった。その中でも、各学級でスポーツチャレンジに取り組ませたり、コロナ禍でも縦割り縄跳び大会を行ったりして、運動の楽しさを味わわせることができた。	B	・運動習慣の観点から見て、登下校の自動車での送迎が気になる。運動の習慣化のためにも徒歩での登下校を推奨したい。 ・運動の量に関して、二極化の傾向にありそうだ。今後も、スポーツチャレンジ等の取組を続けてほしい。	・体育主任 ・特別活動担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日や学校閉庁日を設定する。 ・衛生委員会等を通じて、勤務実態の共有を図り、業務改善の意識を高める。 ・校務シェアボードや校務サーバー等のICT機器の利活用を推進し、会議の時間短縮や分掌事務の効率化を図る。	C	・お盆の期間に学校閉庁日を設定し、連続した休暇をとることができた。定時退勤日は、全職員一斉にはなかなか退勤できないので、個人的に定時退勤日を設定した。 ・校務シェボードや校務サーバーの効果的な使い方を検討し、会議の時間短縮や分掌事務の効率化の取組を始めた。	B	・退勤時刻を意識した働き方が徐々に浸透し、時間外在校等時間が減少してきている。来年度は、更なる業務改善と意識改革を行う予定である。 ・ICT機器を利用した情報伝達を推進したことにより、会議の時間が短縮された。来年度に向けて、より一層効果的なICT機器の利活用を推進していく。	B	・先生方の健康維持のためにもより一層の業務改善を期待する。 ・消毒作業等のスクールサポーターの充実を期待する。	・管理職

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○チーム学校としての取組の推進	○地域連携、幼保小連携、小小・小中連携、外部機関との連携の推進	○「効果的な地域連携、幼保小連携、小小・小中連携、外部機関との連携が行われている」と考える教師80%以上	・児童の安全確保や各種行事の効果的・効率的な実施のために地域との連携を図る。 ・小１ギャップや中１ギャップの軽減のために、幼保小連携、小小・小中連携の推進を図る。 ・配慮を要する児童やその保護者の支援のために、スクールカウンセラーやスクール・ソーシャル・ワーカー等外部機関との連携を図る。	B	・青少年サポート隊や保護者の協力により、登下校の安全確保ができている。 ・新型コロナウイルスの影響で、小中連携や小小連携ができていない。今後、感染症対策を行いながら、どんな連携ができるのかを検討していく。 ・スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーを有効に活用しながら、不登校児等の連携に努めている。	B	・「効果的な地域連携、幼保小連携、小小・小中連携、外部機関との連携が行われている」と考える教師は、66.6%であった。今年度は、新型コロナウイルスの影響で、なかなか思うような活動ができずに、このような結果になったと考える。 ・感染症対策を行いながら、「しめ縄づくり」や「田植え・稲刈り」など、地域と連携した活動ができた。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携し、家庭への情報提供やアドバイスなどが効果的に行えた。	B	・今年度は、コロナ禍で小小や小中での児童生徒の交流は難しかったようだ。来年度以降、小小や小中の活発な交流を期待している。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の効果的な活用は、今後も続けてもらいたい。	・教頭 ・教務主任 ・特別支援コーディネーター ・教育相談担当

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・日々の授業や校内研究で、自分の「問い」をたてたり、書く活動を取り入れたりしたことにより、学力の向上が見られた。来年度は、本年度以上に授業力の向上に努めていきたい。 ・「ぽかぽか言葉」「ぽかぽかアクション」の推進や道徳教育の推進等が豊かな心の育成に効果的であった。いじめの定義の確認や組織的ないじめ防止の取組を一層推進することにより、いじめの早期発見、早期対応に努めていきたい。 ・朝食の喫食率が高い。運動習慣については、二極化の傾向が見られる。来年度も運動習慣の定着のために、スポーツチャレンジの紹介や縄跳び大会をよいきっかけにしたい。また、徒歩での登下校も励行したい。